

名前【 】

- ① この記事の最大の見出しを書きましょう。
[]
- ② このたび見つかった鉄器生産工房などがあったのは、何世紀ごろとみられていますか。
[]
- ③ その遺跡からどのような鉄器が出土していますか。
[]
- ④ その鉄器から、どのようなものが作られていたと想定されていますか？
[]
- ⑤ 記事を読んだ感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学高学年～高校生／社会、総合、朝NIE

淡路弥生期の鉄器拠点

舟木遺跡

淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、新たに鉄器生産工房跡と、手工業品を生産した可能性のある工房跡、鉄器貯点などが見つかった。兵庫県と同市の両教育委員会が25日発表した。過去に同市で見つかった近畿最大の鉄器生産遺跡「五斗長垣内遺跡」（同市黒谷）を上回る規模と推定され、専門家は「弥生時代、淡路島が鉄器の製作や保有の地として有力視されていたことを裏付ける発見だ」と指摘する。

同時に出土した土器の年代から、工房があったのは3世紀後半とみられる。見つかったのは4棟の大型の竪穴建物跡。うち3棟は敷地面積が約10坪を超え、1棟から4基の炉の跡が確認された。柱が外側に寄り中央部が広いことから、作業をする空間だったと想定される。また4棟全てから鉄器製作に使ったと思われる石器を多数発見。鉄器は計57点あり、



舟木遺跡で見つかった小型鉄器

舟木遺跡 弥生時代後期～末期（1世紀後半～3世紀初頭）に存在したとみられ、1966年に発見された。面積は推定約40万平方メートル。91年の調査で見つかった出土物が、古代の中国で製作された青銅製の中国鏡の破片であることが明らかになった。

工房跡発見、近畿最大か 「五斗長垣内」近く 小型工具も出土



炉の跡が確認された工房の遺構。土が赤っぽく焼けている＝淡路市舟木（撮影・内田世紀）

鍛冶関連のほか針状鉄器など小型工具が出土した。針状鉄器は小さいものでは長さ4ミリ、幅1ミリで、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「小型工具を使った何らかの手工業品を生産する大規模な工場の跡では、鉄鍬（矢尻）などの武器類が多く出土した一方、舟木では明確に武器と認められるものはなかった。二つの集落はわずか約6メートルの距離でほぼ同時期に存在していたが、生産物に違いがあることが判明。五斗長垣内が消滅した後も舟木で鉄器生産が続けられていたことも分かった。（切鼻滋巨）